

[今すぐ実践！省エネ手法]

オフィスで取り組める省エネ手法を紹介します。施設内での省エネ取組みの際にご活用下さい。

オフィスビルの節電チェックシート（夏季）

電力消費の多い機器の節電にご協力をお願いします。

項目	内容	建物全体に対する節電効果	実行チェック	日付
照明	可能な範囲で照明を間引きする。（労働安全衛生規則基準値（精密作業300Lx、普通作業150Lx、粗な作業70Lx）にもご留意ください。）執務室の照明を半分程度間引きした際の数値	11.8%		
	使用していないエリア（会議室・廊下等）の消灯をした場合の数値	3.0%		
空調	執務室の冷やしすぎに注意し、無理のない範囲で室内温度を上げる（右記の節電効果は室内温度を26℃から2℃上げた場合の数値）※熱中症にご注意ください。	4.5%		
	使用していないエリアは空調を停止する。	2.7%		
OA機器	長時間席を離れるときはOA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	2.5%		

省エネ・節電効果が大きい以下のアクションについて検討をお願いします。

項目	内容	建物全体に対する節電効果	実行チェック	日付
空調	日中の日射を遮るために、ブラインド、カーテン、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。	4.1%		
	冷凍機の冷水出口温度を高めに設定し、ターボ冷凍機、ヒートポンプ等の動力を削減する。（セントラル空調の場合）	2.7%		

メンテナンスや日々の節電にもご協力をお願いします。

項目	内容	実行チェック	日付
照明	昼休みなどは可能な範囲で消灯を心がける。		
	従来型蛍光灯を、LED照明に交換する。（従来型蛍光灯から直管型LED照明に交換した場合、約50%消費電力を削減。）		
	窓際等自然採光部分は消灯する。		
空調	目詰まりしたフィルターを清掃する。		
	電気室、サーバー室の空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。		
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。		
	空調機の節電機能（ピークデマンドカット機能等）を活用する。		
OA機器	排ガスによる放熱ロスを避けるため、ガス吸収式冷温水機について空気比の適正化を図る。		
コンセント動力	コピー機が複数台ある場合は、使用頻度に応じて稼働台数を減らす。		
	電気式給湯器、給茶機、エアタオル等のプラグを可能な範囲でコンセントから抜く。		
	温水洗浄便座は、可能な範囲で保温、温水の機能を停止する。		
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長や節電モードへの切り替え等を行う。		
	混雑時以外はエレベータやエスカレータの稼働を停止又は台数を減らす。		
	ディスプレイの明るさを下げ、不要時は消灯する。		
その他	「クールビズ」を励行する。		
	デマンド監視装置を導入し、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		

〔ご注意〕

- ・記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する目安です。
- ・空調についての節電効果は電気式空調を想定しています。
- ・一定の条件の下での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。
- ・節電を意識するあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

出典：資源エネルギー庁ウェブサイト（『夏季・冬季の省エネ・節電メニュー・リーフレット（事業者向け：沖縄版）』より）